

マルナカだより 春号

東日本大震災より 2年が経過しました

2011年3月11日 14時46分ごろ三陸沖を震源とするマグニチュード9.0 最大震度7の巨大地震が発生しました。

震災直後は被災地から離れた東京・神奈川でも食料品や飲料水、保存食品や防災グッズさらには生活用品までもが買い占められる事態となりました。

震災後1年目に行われた国土交通省の意識調査では
防災意識の高まり・52.0%
節電意識の高まり・43.8%
家族の絆の大切さ・39.9%
地域の絆の大切さ・15.1%
健康意識の高まり・11.3%
仕事観……………5.1%
複数回答可の為100%にはなりません、防災や節電、家族や地域との絆の大

切さが多くを占めています。また、重視する住宅性能として【耐震化や免震化など地震に強い家】が最多の67.5%、次いで【省エネに優れた家】が54.0%でした。

しかし、2年を経過したいま、防災意識は、節電意識は、地震に強い家への対策は薄れつつあるのではないのでしょうか。

耐震診断は受けましたか？
家具の固定はしていますか？
正しい位置に取り付けられていますか？
取り付けたまま点検していないのではないですか？
非常持ち出し袋の中身は？
足りないもの



はありませんか？外出先で災害にあったとき、あなたに必要な持ち物は携帯していますか？家族や地域との絆は強いままですか？

震災後2年を前にNHKが被害の大きかった岩手・宮城・福島3県の被災者や事故の被害者に実施したアンケートでは6人に1人が家族関係が悪化したと回答しました。また、昨年1月に行われたリビングHOW研究所の調査によると震災直後は防災意識が強くなったが、最近はやや薄れ気味と回答した人が3割を占めました。

さらには、4割が自治体の防災マップ



すら入手しておらず、7割以上が自治体や自治会などの防災訓練に参加していませんでした。「喉元過ぎれば熱さ忘れる」という言葉のとおり時間の経過とともに危険管理意識の低下が否めません。実際に震災を目の当たりにし、家具の転倒、物資や食料品の不足、交通マヒ、計画停電を体験しているので準備しておかなければならないことは分かっているはずですが、震災から学んだ教訓を生かし、いま一度ご家庭の防災対策を見直してはいかがでしょうか。



子供は小学校へ入学すると行動範囲が広がります。

登下校の途中や習い事への行き帰り、友達と外で遊んでいる、一人で留守番をしているなど大人の目が行き届かないところで被災するかもしれません。

身を守り、地震後は速やかに安全な場所に避難できるように【どこにいるときは、どう行動する】と親子で詳細に話し合っておきましょう。例えば子供と一緒に通学路を歩いてみたり、危険な塀などはないか、逃げ込める広い場所はあるかなど確認しておきましょう。学年があがると決められた通学路以外を通っている可



能性もあります。子供が普段使っている道を確認しましょう。

また、ご家庭内の安全確認も一緒に行いましょう。子供部屋は、おもちゃや本を頭より高いところへ置かない、停電した場合のことを考えて部屋は常に片づけておく、といったことを約束しておきましょう。日々のこうした心がけは、防災意識を高めるだけでなく、生活習慣を整える効果もあります。また、避難経路となる出入り口をふさぐことのないように家具の配置・転倒防止も検討して下さい。

もし大きな地震や災害が起きて、日頃からしっかり



訓練していれば大丈夫な事、周りの大人が子供を守ってくれること、学校や家は安全な場所であることなどを伝え、安心させてあげてください。

非常時備蓄品の賞味・消費期限は確認していますか？震災直後に製造・購入した商品の保存期限が3年なら残りは1年です。保存期限が1年未満になったら消費をしながら新しいものの購入を検討しなければなりません。

備蓄品は決して安いものではありません。期限が切れたからといって廃棄するより期限前に消費するように心がけましょ



う。例えば、一定の割合の食糧(水など)をストックしておき、ストックを常に持ちながら消費していくという家庭内備蓄システムです。賞味期限の長いものを選んで期限が切れそうなものから消費しては買い足していくという生活の知恵。例えば一人分の食事を用意しなければいけないとき、備蓄品として用意してあったものを使ってみるなど、震災時に食べ慣れないものを食べるより少しでも食べたことのあるものの方が安心できます。子供も含め一度食べてみるのもいいかもしれません。また、製造出荷待ちが続いている人気商品もあります。備蓄品が何もない!!という状況がないように上手に消費・購入し

ましよう。災害はいつ起こるか分かりません。これをしておけば大丈夫ということもありません。日頃から防災、減災意識を高め、準備・対策をして、いざという時のため心構えをしっかりと持ちましょう。記憶を風化させない事も防災対策の一つと言えるかもしれません。

抜粋: All About チビタス 子供と一緒に!!地震津波対策



減災行動出来ますか？ —トイレ・お風呂編—

揺れを感じたらまずドアを開け、避難路を確保しましょう。トイレでは便座に座り、壁に手をつけて身体を固定し、揺れが収まるまで待機しましょう。お風呂では浴槽に入り頭部を守るため風呂蓋をかぶり揺れが収まるまで待機しましょう。特にお風呂では裸のため、ケガをする確率が高くなります。落ち着いて行動しましょう。



(株)マルナカホーム
〒223-0057 横浜市港北区新羽町896
TEL 045-547-3434 FAX 045-545-9935
http://www.marunaka.tv/
ご用命の方はフリーダイヤルへフリーダイヤル
0120-28-45-28
どんなに小さなことでも遠慮なく御相談下さい 鈴木

災害時の声の伝言板 ●災害用伝言ダイヤル171●

【伝言を録音する場合の手順】

- ①「171」にダイヤルする……ガイダンスが流れます。
- ②録音の場合「1」……ガイダンスが流れます。
- ③被災地の電話番号を市外局番からダイヤルする。
(×××)×××-××××

【伝言を再生する場合の手順】

- ①「171」にダイヤルする……ガイダンスが流れます。
- ②再生の場合「2」……ガイダンスが流れます。
- ③被災地の電話番号を市外局番からダイヤルする。
(×××)×××-××××

家族みんなが使えるよう、見える場所に貼っておきましょう。

東日本大震災 ー復興続く3年目ー

警察庁によると2013年3月8日現在で、死者15,881人、行方不明者2,668人。震災直後は約47万人が避難所などで生活を余儀なくされた。現在でも31万人を超える避難者がいる。震災瓦礫は全体の44%しか撤去されておらず、除染作業は敷地より20メートルまでとされ多くの山林は除染作業が進んでいない。

岩手県

県内で死者4,673人、行方不明者1,151人。県のまとめでは、被害の大きかった陸前高田市では死者が1,556人。県内に111ある漁港のうち108が被災した。気象庁が行った痕跡調査では、岩手県沿岸で16メートル以上の津波があったことが確認された。

宮城県

県北部の栗原市で最大震度を記録。県内で死者9,535人、行方不明者1,302人。県が2013年2月には票下被害状況によると、被害が特に大きかった石巻市では関連死も含めた死者は3,490人にのぼった。県内142の漁港は全てが被災した。

福島県

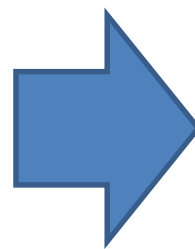
死者1,606人、行方不明者211人。東京電力福島第一原子力発電所事故などの影響で、県の災害対策本部によると、県内外合わせて15万人以上が避難生活を送っている。楢葉町、富岡町、大熊町など、警戒地域または計画的避難区域だったことのある11市町村について、除染特別区域(直轄地域)として国が直轄除染を行う。



あなたの備えをチェックしよう！防災・減災チェックシート

実施している項目にチェックをつけましょう。チェックの数であなたの防災意識の高さが分かります。

- 寝室の家具を固定した
- 寝室の窓ガラスに飛散防止フィルムを貼った
- 懐中電灯や保安灯を用意した
- キッチンの大型家電や家具を固定した
- 消火器を用意して、使い方を確認した
- 家の中で一番安全な場所を家族で確認した
- 脱衣所にすぐ羽織れるガウンなどを用意した
- 避難経路を作るためバールなどの工具を用意した
- 非常持ち出し袋を用意し、玄関の目立つ場所に置いた
- 自宅付近のハザードマップを確認した
- 自宅の耐震性能を確かめた
- 災害用伝言ダイヤルの番号と使い方を確かめた
- 被災後、家族別々に避難した時の待ち合わせ場所を決めた
- 水や食料を3日以上用意した
- 避難場所、避難所、救急病院の位置を確認した
- 自分の住む自治体の災害時対応を確認した
- 勤め先から自宅まで歩いて帰宅経路を確認した
- SNS(ソーシャルネットワークサービス)のアカウントを作って家族などに周知した
- 地域の避難訓練に参加した
- 家族で災害時のシュミレーションをした



チェックの数0~4

災害が起きたら真っ先に危険にさらされる可能性が非常に高いようです。まずできるところから準備を始めましょう。

チェックの数5~9

日本が地震多発地域であることを、もう一度意識して行動しないと、かなり危険な状態です。

チェックの数10~13

もう少しがんばらないと、自分も家族も守りきれません。チェックを付けられなかったところをすぐに意識しましょう。

チェックの数14~17

あと一歩がんばればあなたとあなたの家族は災害発生時にも無事に切り抜けられるでしょう。かなり優秀。

チェックの数18~20

あなたの被災リスクは非常に低く、ほぼ万全の準備ができています。ただ防災に100%はありません。その意識を保ち続けることが大切。